

# 平成30年度決算の概要

---

# 目次

---

◆ 会計処理の特徴 .....	1
◆ 償還準備金積立方式の仕組み .....	2
◆ 平成30年度決算の概要 .....	3
◆ 平成30年度損益計算書 .....	4
◆ 平成30年度貸借対照表 .....	5
◆ 借入金残高の推移 .....	6
◆ 通行台数・料金収入・供用延長の推移 .....	7
◆ 計画との比較 .....	8
◆ 平成30年度キャッシュフロー計算書 .....	9



# 会計処理の特徴

## 原則

- 当会社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、企業会計原則に準じた会計処理(発生主義・複式簿記)を行っています。

## 特徴

- 広島高速道路の整備については、出資金・借入金で建設を行い、お客様から頂いた料金収入で借入金等を一定の期間内に償還する有料道路制度を活用しています。償還完了後の道路は、本来の道路管理者に引き渡します。
- 有料道路制度においては、借入金等の償還状況を会計処理において適切に把握することが重要で、道路への投下資金(借入金等)とその償還額を每期明らかにするため、「道路資産」については企業会計において一般的に採用されている減価償却費を計上していません。
- 借入金等の返済に充てた収支差(料金収入と管理費、利息等の費用の差)は、「償還準備金繰入」として費用に計上し、その累計額を「償還準備金」として貸借対照表の負債の部に計上しています。
- これにより、貸借対照表上で、資産の部に計上される「道路資産」と負債の部に計上される「償還準備金」とを対比することで、借入金の償還状況がわかりやすい仕組みになっています。



# 償還準備金積立方式の仕組み



## 平成30年度決算の概要

- ① 収益のうち道路料金収入は、前年度から1.6億円増加し、121.2億円となりました。ただし、平成30年7月豪雨災害の通行止めの影響により、前年度からは1.3%の増加に止まりました。
- ② 費用のうち道路管理費等の事業資産管理費は、計画的に実施している電気通信設備の改良工事等により、前年度から5.0億円増加し、38.9億円となりました。借入金利息等の業務外費用は、借入金の未償還残高の減により、前年度から2.1億円減少し、16.0億円となりました。また、平成30年7月豪雨災害の復旧費用1.9億円を特別損失として計上しています。
- ③ 道路料金収入等の収益から事業資産管理費等の費用を控除した収支差は、償還準備金繰入として、借入金の返済に充てました。償還準備金繰入は60.8億円で、累計額の償還準備金は、558.4億円となりました。
- ④ 平成30年度末の借入金の未償還残高は、建設事業の財源及び借換資金を新規借り入れし、償還準備金等を財源に元金償還した結果、前年度から24億円減少し、2,376億円となりました。



# 平成30年度損益計算書

(単位:百万円)

費用の部				
科目	金額			増減率 (%)
	平成30 事業年度	平成29 事業年度	差額	
事業資産管理費	3,891	3,386	505	14.9
道路管理費	3,807	3,304	503	15.2
ETCマイレージ還元負担金等	84	82	2	2.4
一般管理費	436	435	1	0.2
一般管理費	252	263	△10	△4.2
減価償却費等	184	172	12	7.0
業務外費用	1,597	1,809	△212	△11.7
借入金利息	1,565	1,778	△213	△12.0
債券発行費償却等	32	31	1	3.2
受託業務費	658	993	△335	△33.7
特別損失	192	0	192	皆増
小計	6,774	6,623	151	2.3
引当金等繰入	6,126	6,417	△291	△4.5
償還準備金繰入	6,084	6,403	△319	△5.0
償還準備積立金繰入	42	14	28	200.0
合計	12,900	13,040	△140	△1.1

収益の部				
科目	金額			増減率 (%)
	平成30 事業年度	平成29 事業年度	差額	
業務収入	12,199	12,031	168	1.4
道路料金収入	12,072	11,911	161	1.4
ETCマイレージ還元負担金収入	46	46	0	0.0
業務雑収入	81	74	7	9.5
業務外収益	43	16	27	68.8
受託業務収入	658	993	△335	△33.7
合計	12,900	13,040	△140	△1.1

※ 係数毎に端数処理しているため、計において合致しないことがあります。  
 ※ 増減率は端数処理後の値で算出しています。  
 ※ 平成30年7月豪雨災害の復旧費用を特別損失として計上しています。



# 平成30年度貸借対照表

(単位:百万円)

資 産				
勘定科目	金額			増減率 (%)
	平成30 事業年度	平成29 事業年度	差額	
流動資産	7,795	7,137	658	9.2
現金・預金外	7,795	7,137	658	9.2
固定資産	382,353	379,445	2,908	0.8
事業資産	304,279	304,279	0	0.0
道路建設仮勘定	77,312	74,247	3,065	4.1
有形固定資産外	762	919	△157	△17.1
繰延資産	290	250	40	16.0
借入金取扱諸費外	290	250	40	16.0
<b>資産合計</b>	<b>390,438</b>	<b>386,833</b>	<b>3,605</b>	<b>0.9</b>

負債及び資本				
勘定科目	金額			増減率 (%)
	平成30 事業年度	平成29 事業年度	差額	
流動負債	29,210	28,452	758	2.7
1年内返済予定長期 借入金外	29,210	28,452	758	2.7
固定負債	210,576	214,632	△4,056	△1.9
広島高速道路債券	110,000	104,000	6,000	5.8
地方公共団体借入金	45,373	50,380	△5,007	△9.9
政府借入金	48,091	52,327	△4,236	△8.1
市中銀行等借入金等	6,775	7,744	△969	△12.5
退職給与引当金	172	151	21	13.9
ETCマイレージ引当金	32	30	2	6.7
資産見返補助金	133	0	133	皆増
特別法上の引当金等	67,710	61,584	6,126	9.9
償還準備金	55,835	49,751	6,084	12.2
償還準備積立金	11,875	11,833	42	0.4
(負債合計)	307,497	304,669	2,828	0.9
基本金	82,807	82,030	777	0.9
地方公共団体出資金	82,807	82,030	777	0.9
剰余金	134	134	0	0
(資本合計)	82,941	82,164	777	0.9
<b>負債・資本合計</b>	<b>390,438</b>	<b>386,833</b>	<b>3,605</b>	<b>0.9</b>

※ 係数毎に端数処理しているため、計において合致しないことがあります。

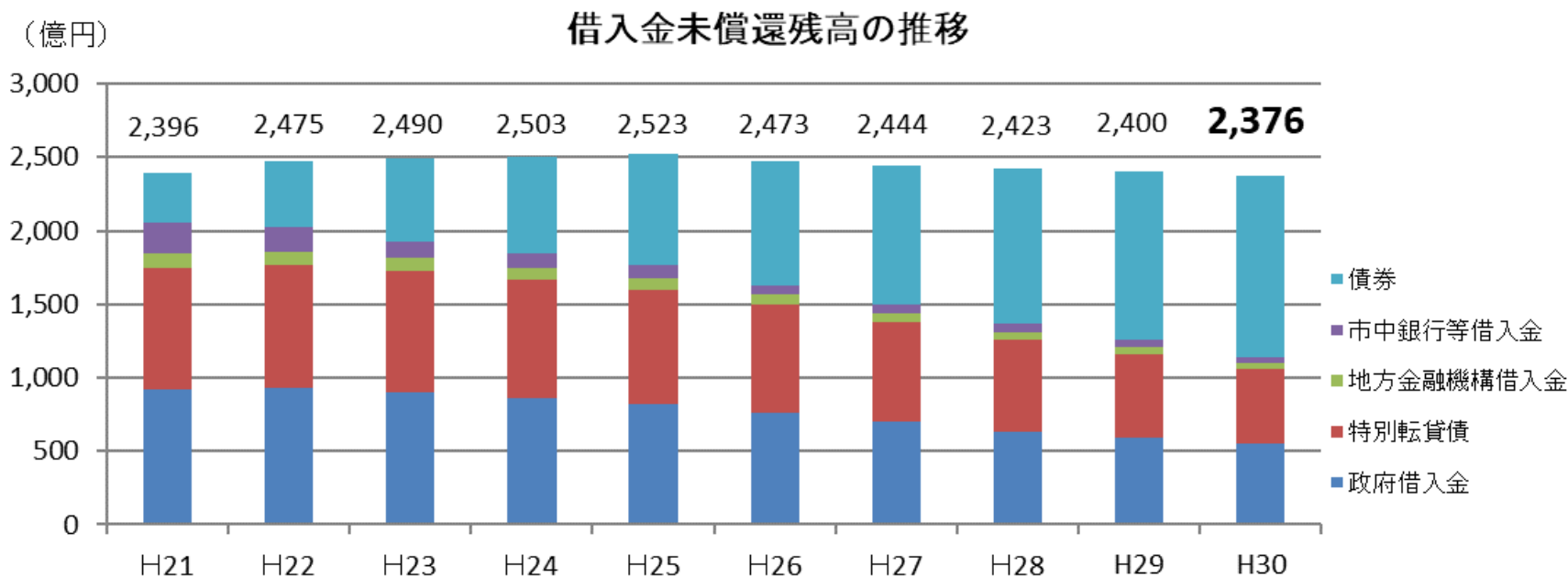
※ 増減率は端数処理後の値で算出しています

※ 平成30年7月豪雨災害の復旧費用に対する国庫補助金を、資産見返補助金として計上しています。



# 借入金残高の推移

借入金残高の状況は、建設事業の財源及び借換資金として232億円を新規借り入れし(債券、政府借入金等)、償還準備金等を財源に元金償還した結果、平成30年度末の借入金の未償還残高は平成29年度に比べ24億円減少し、2,376億円となりました。



## 平成30年度末の借入金残高

前年度末	平成30年度借入額	計	償還	平成30年度末
2,400億円	232億円	2,632億円	256億円	2,376億円



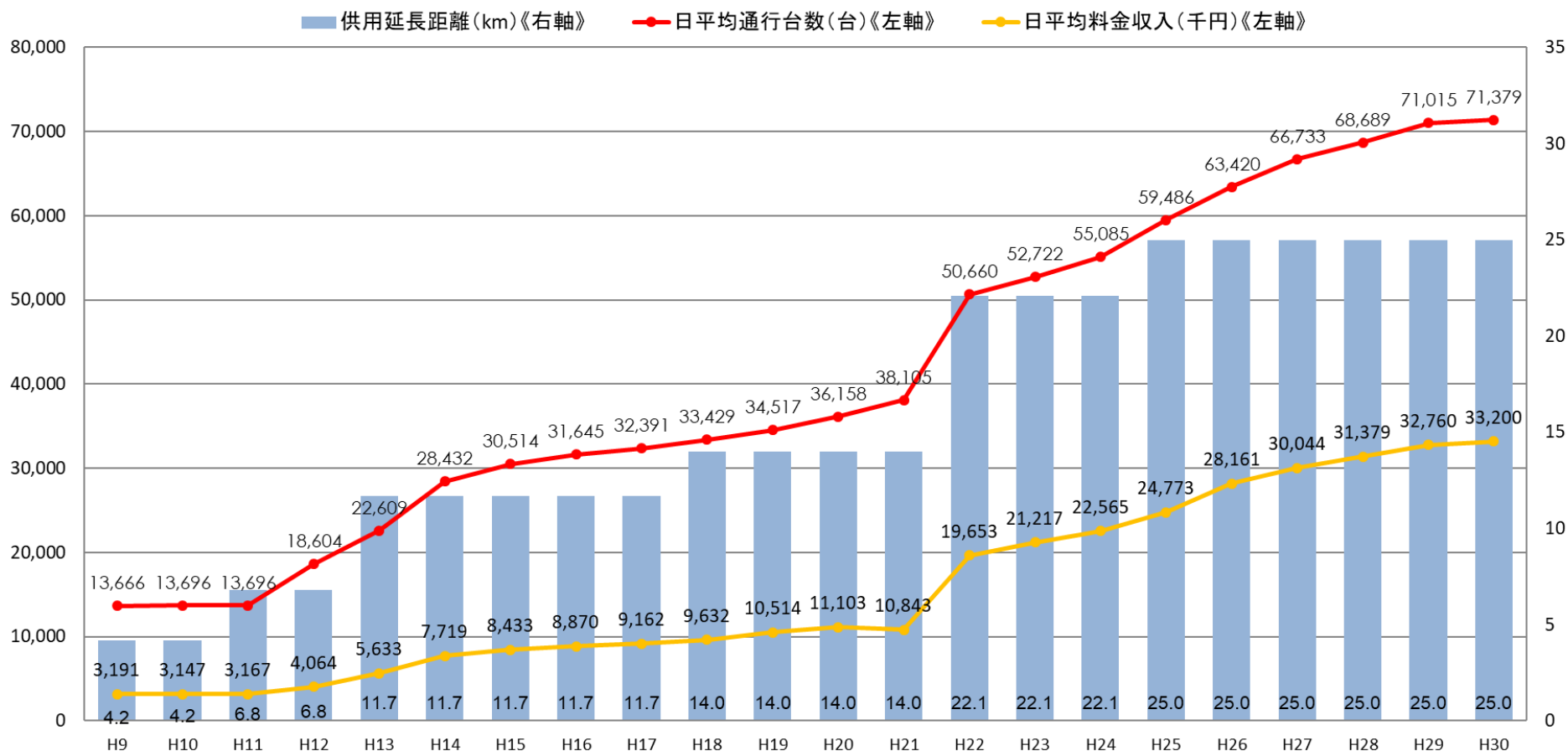


# 通行台数・料金収入・供用延長の推移

平成30年度

日平均通行台数 71,379台(0.5%増)、日平均料金収入 33,200千円(1.3%増)

- 平成22年4月に広島高速2号線及び3号線Ⅱ期、平成26年3月に広島高速3号線Ⅲ期と、新規路線の供用開始後、通行台数・料金収入ともに増加。



# 計画との比較

## 【償還準備金繰入】

(単位:百万円)

区 分		収 益 (A)	費 用		償還準備金繰入 (A-B)	営業係数 (B/A*100)	
			(B)	管 理 費			借入利息等
平成30年度	計画	12,679	5,143	3,507	1,636	7,536	41
	実績	12,201	6,116	4,519	1,597	6,084	50
累 計	計画	124,771	67,102	40,509	26,593	57,669	54
	実績	124,474	68,639	42,031	26,608	55,835	55
計 画 に 対 す る 実 績 の 比 率		99.8	102.3	103.8	100.1	96.8	—

○計画は、整備計画(平成28年12月国土交通大臣許可)の数値です。

○管理費は、事業資産管理費、一般管理費の合計です。

○営業係数は、100円の収益を得るために必要な費用を意味し、平成30年度は平成30年7月豪雨災害の影響等により、昨年度から3ポイント低下しました。



# 平成30年度キャッシュフロー計算書

	平成30事業年度	平成29事業年度	増減額		平成30事業年度	平成29事業年度	増減額
	A	B	A-B		A	B	A-B
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>				<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
償還準備金繰入等	6,126	6,417	△291	有価証券の取得による支出	△1,000	△7,000	6,000
減価償却費	129	130	△1	有価証券の売却による収入	1,000	7,000	△6,000
賞与引当金繰入額	2	32	△30	事業資産の取得による支出	—	—	—
退職給付費用	22	10	12	事業資産の売却による収入	—	—	—
E T Cマイレージ引当金繰入	2	0	2	建設仮勘定の取得による支出	△4,516	△5,186	670
債券発行費等償却額	27	25	2	固定資産の取得による支出	△80	△75	△5
雑損	—	—	—	固定資産の売却による収入	61	87	△26
受取利息	0	0	0	投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△4,535</u>	<u>△5,174</u>	<u>639</u>
債券支払利息	791	883	△92	<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
借入金支払利息	774	895	△121	短期借入による収入	—	—	—
未収金等増減額	445	△118	563	短期借入の返済による支出	—	—	—
棚卸資産増減額	△2	△13	11	長期借入による収入	4,035	4,550	△515
未払金等増減額	377	148	229	長期借入の返済による支出	△15,576	△15,103	△473
小計	<u>8,693</u>	<u>8,409</u>	<u>284</u>	債券の発行による収入	20,000	18,000	2,000
利息の受取額	0	0	0	債券の償還による支出	△10,000	△10,000	0
債券利息の支払額	△791	△883	92	補助金の受入による収入	133	—	133
借入金利息の支払額	△775	△895	120	補助金の返還による支出	—	—	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>7,127</u>	<u>6,631</u>	<u>496</u>	出資金の受入による収入	777	1,600	△823
				財務活動によるキャッシュ・フロー	<u>△631</u>	<u>△953</u>	<u>322</u>
				<b>IV 現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>1,961</b>	<b>504</b>	<b>1,457</b>
				<b>V 現金及び現金同等物期首残高</b>	<b>3,941</b>	<b>3,437</b>	<b>504</b>
				<b>VI 現金及び現金同等物期末残高</b>	<u><b>5,902</b></u>	<u><b>3,941</b></u>	<u><b>1,961</b></u>

(単位：百万円)

